３．アンケート調査結果

アンケート調査の結果を以下にまとめました。点線枠内に実際のアンケートを載せ、続けて集計結果を示しました。

１、お住まいや乗る人についてお尋ねします

1-1）記入日：　　年　　月　　日

1-2）住所：　　都道府県　　市区町村

1-3）子供を乗せて自転車を運転する人母親（　　才）、父親（　　才）、母と父の比率（　　：　　）

1-4）自転車に同乗する子供　：　　才　　ヶ月（乗せる位置：前・後ろ・おんぶ）

　　才　　ヶ月（乗せる位置：前・後ろ・おんぶ）

　　才　　ヶ月（乗せる位置：前・後ろ・おんぶ）

1-2)住所：北海道･東北 5、関東 166、中部 17、近畿 62、四国 2、九州 4、無回答 1､合計 257

1-3)子供を乗せる運転者の年代

母：20 代 27 人(11%)、30 代 203 人(80%)、40 代 11 人(4%)、無回答 14 人　合計 255 人

父：20 代 7 人(4%)、30 代 109 人(67%)、40 代 33 人(20%)、無回答 13 人　合計 162 人

その他：祖父 1 人

表４：母と父とでの運転の比率（母÷父）

母のみ	**９８件**（38%）
「母がほとんど」（5 倍から 1000 倍）	**１０２件**（40%）
「母が主」（3 倍－5 倍未満）	１１件（4%）
「同程度か母が多め」（1－3 倍未満）	２４件（9%）
「父が主」、「父のみ」（１未満）	２件（1%）
その他・無回答	２０件（8%）

回答者の家族では、子供を自転車に乗せて運転するのは、ほとんどが母親でした。

1-4)同乗する子供（現在）

現在同乗している子供は、全部で 373 人でした。乗せる位置と年齢の関係を表５に示しました。乗せる子供の数にもよりますが、1､2 歳は前、4 歳以上は後ろ乗せが多くなっていました。また、同乗している子供の年齢は、2 歳が最も多く、3 歳、4 歳、5 歳の順でした。

表５：年齢と乗せる位置　　（単位：人）

	おんぶ	おんぶ又は前	前	前又は後ろ	後ろ	他	合計
０歳	**１１**	２	５				１８（５%）
１歳	１		**４６**	１	３	３	５４（14%）
２歳	１	１	**４３**	６	１８	２	**７１**（19%）
３歳			２３	**１４**	２８	１	**６６**（18%）
４歳			１２	７	**４３**		**６２**（17%）
５歳			３	４	**５３**	１	**６１**（16%）
６歳					３４		３４（９%）
７歳以上					７		７（２%）

２、自転車と補助イスについてお尋ねします

2-1）自転車

・メーカー、商品名、インチ数：

・分類：　軽快車・ミニサイクル・前カゴに子供を乗せる専用車（以下、前カゴタイプ）・
　　その他（具体的に　　）

2-2）補助イス（複数お持ちの場合、２台目は 2-2'）に記入してください）

・タイプ：　前乗せ用、後ろ乗せ用、前カゴ

・　メーカー、商品名

・対象年齢：２～３歳、２～６歳未満、その他（　　）

・購入してからの期間：　　年　　ヶ月

・ベルトタイプ：　２点式（左右のベルトをお腹の前で止める）
　　４点式（両肩と両脇下のベルトを胸の前で×の形でとめる）
　　３点式（両肩と足の間のベルトを Y 字型で止める）
　　その他（　　）

・　ベルトの着用：　いつも止めている・時々・
　　止めていない（理由・・子供が嫌がる・壊れた・その他　　）

・SG マーク：　有　無

・使いにくい点、問題だと思う点

2-1)自転車

・全自転車数：**265** 台（内メーカー不明 41%、商品名不明 59%）

・自転車の種類は、軽快車が多く(49%)、次いで前カゴタイプ(16%)、ミニサイクル(10%)の順でした。尚、その他(5%)には、電動アシストサイクル、マウンテンバイクなどがありました(不明 20%)。

2-2)補助イス

・補助イス全数：**403** 台（内メーカー不明 65%、商品名不明 89%）

・補助イスのタイプは後ろ乗せ用が多く（図３）、**前後につけている自転車が 52%**、1 台の場合は「後ろだけ」が多くみられました（図４）。

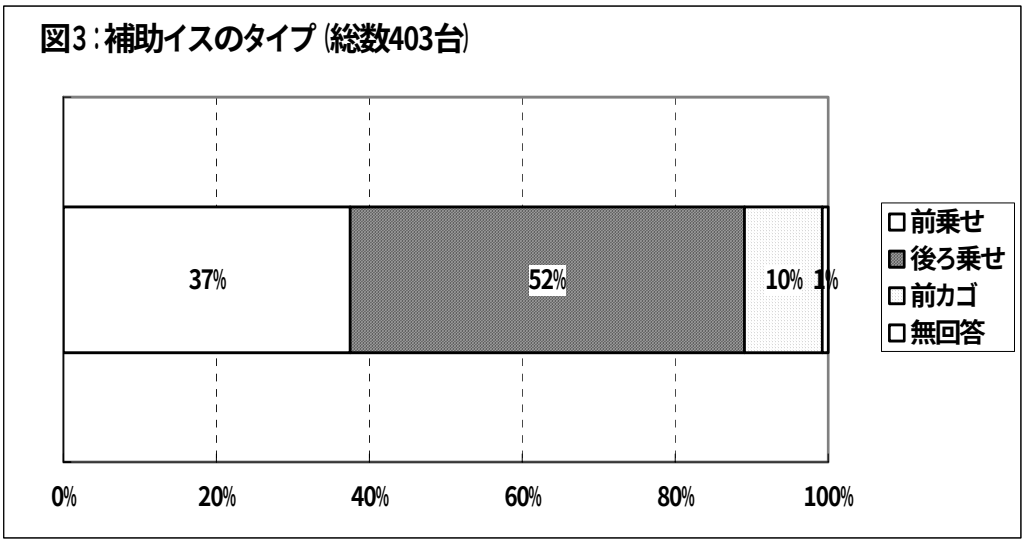
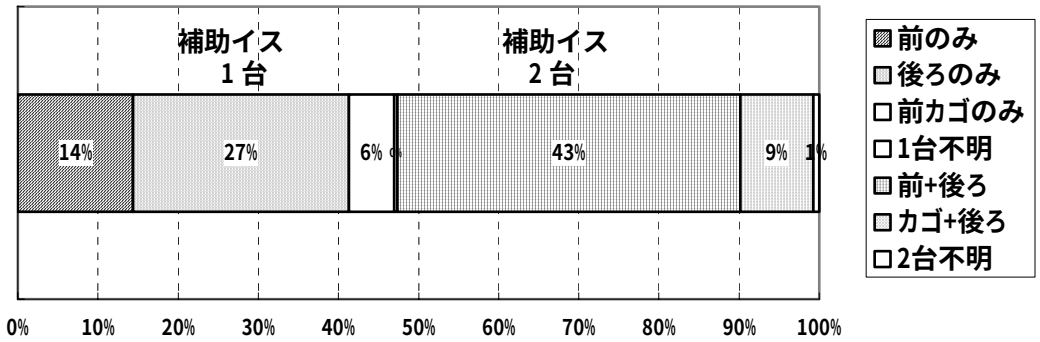


図4：1自転車あたりの補助イスのタイプ（総数、自転車265台）



・対象年齢

前乗せ用は 2－3 歳が、後ろ乗せ用は 2－6 歳が主流でした。前カゴタイプは身長や体重による表示も多くなっていますが、おおむね 10 ヶ月～3 歳程度に相当するものが多くありました。

・購入後期間

前乗せ用、後ろ乗せ用ともに、購入してから「3 年未満」が 4 割強、「3 年以上 6 年未満」が 3 割強でした。6 年以上使用している補助イスも 1 割余りあり、一度つけると兄弟で使い回している様子がうかがえました。知人から譲り受けるなど使用期間がわからないケースも 1 割程度ありました。前カゴタイプは 3 年未満が半数を超えていました。

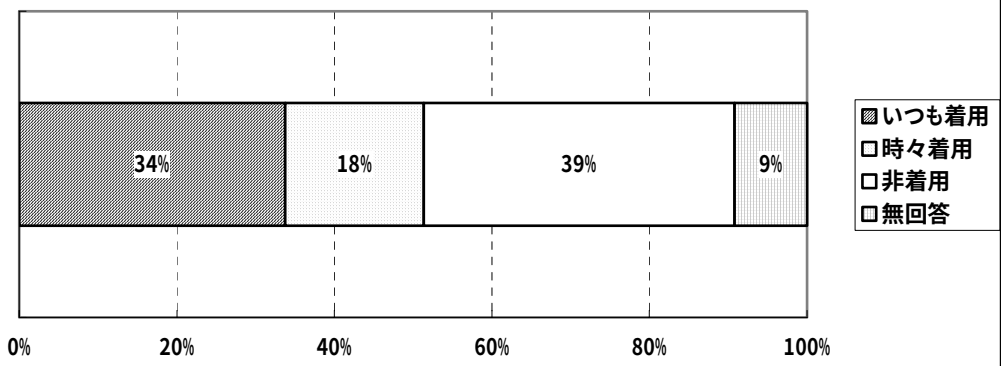
・ベルトタイプ

無い 27 台(7%)、2 点式 323 台(80%)、3 点式 5 台(1%)、4 点式 2 台(0.5%)、その他(自作など)3 台(0.7%)、無回答 43 台(11%)となり、**ほとんどが 2 点式ベルト**でした。

・ベルトの着用

「いつもとめている」が補助イス全数の 34%、「時々とめている」が 18%、「とめていない」が 39%でした。とめていない理由には「壊れた（とめない例の 29%）」「面倒」「な

図5：ベルトの着用状況（総数　補助イス403台）



い」の他に、「とめている事がかえって危険だと思う」「とめる意味を感じられない」という意見がありました。事故事例で、ベルト着用・非着用がケガの有無に関係しているかを分析しました（図 27）。

・SG マーク

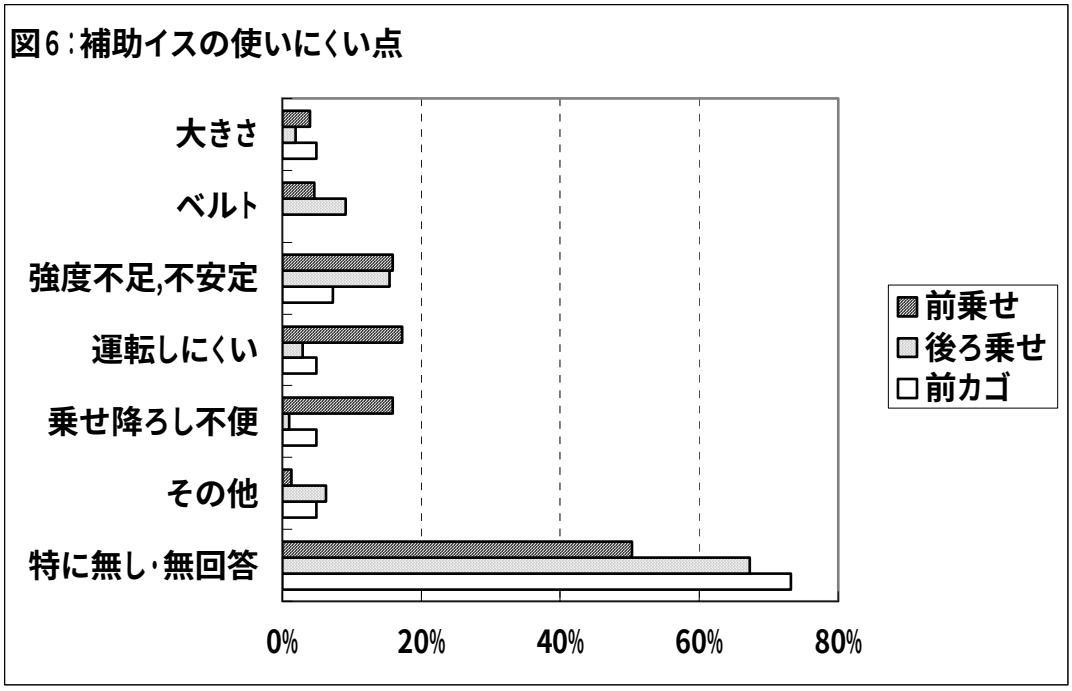
有 215 台（53%）、無 46 台（11%）、不明・無回答 142 台（35%）

（「有」の中には、前カゴタイプの自転車につけられているものを含む場合があります。）

・使いにくい点（複数回答）

補助イスの使いにくい点を自由記入してもらい、回答を 7 つに分類して集計しました。

前乗せ用では、「運転しにくい」「強度が足りない、不安定である」「乗せ降ろししにくい」など約半分の補助イスで使いにくさがあげられました。後ろ乗せ用では、足載せが破損したり重心が後ろに取られる「強度不足、不安定」、「ベルト」の破損や使いにくさ、見えないことへの不安（「その他」の一部）などの指摘が 3 割あまりありました。一方で後ろ乗せ用は、「特に無し」及び無回答も 7 割弱有り、前乗せ用よりは不満は少ないようです。前カゴタイプは、7 割強が使いにくい点をあげませんでした。



設問 2-3)でその他の設備（前輪ロック、後輪ロック、変速ギア、幅広のスタンド、風防、クッションなど）について、「ついている装備」「使っている装備」「つけているグッズ」を聞きました。しかし、設備を示す用語の定義をしていなかったため、回答者によって解釈にばらつきが生じました。無回答なのか装備が無いのかの区別もできなかったため、結果は示しませんでした。

３、使用状況についてお尋ねします

3-1）子供を乗せて自転車を運転する目的（主な順に３つ選んでください）

買い物・遊び（公園など）・送迎（幼稚園・保育園・習い事）・その他（具体的に　　）

3-2）使用頻度：

毎日・　週に　　日（平日、週末どちらが主でしょうか）

3-3）１日の乗車時間：

10 分以内・10～20 分・20～30 分・30 分以上

3-4）使用する時間帯（3 つまで選ぶ）：

７時以前、７～９時、９～１１時、11 時～13 時、13～15 時、15～17 時、17 時～19 時、19 時以降

3-5）子供を同乗させた期間：

第１子　　才　　ヶ月～　　才　　ヶ月（体重約　　ｋｇ～約　　ｋｇ）

第２子　　才　　ヶ月～　　才　　ヶ月（体重約　　ｋｇ～約　　ｋｇ）

第３子　　才　　ヶ月～　　才　　ヶ月（体重約　　ｋｇ～約　　ｋｇ）

3-6）同乗させる子供の数：

現在・・・・1 人のみ・1 人又は 2 人・3 人以上（3 人目の乗せ方：おんぶ・後ろに 2 人・その他　　）

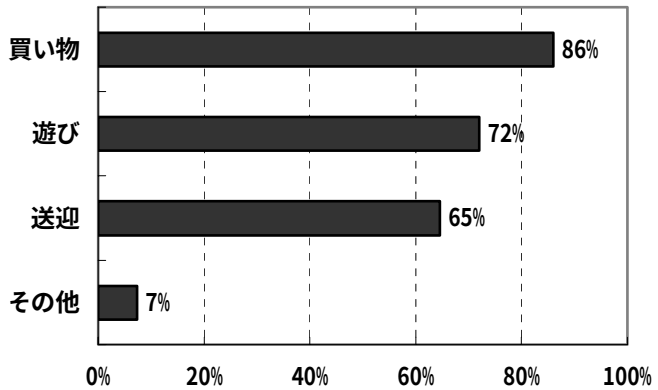
過去最多・・1 人・2 人・3 人以上（　　人）（3 人目以降の乗せ方：おんぶ・後ろに 2 人・その他　　）

3-7）雨の日の乗車：　雨の日は乗らない・小雨なら乗る・雨でも乗る

3-1)使用目的（複数回答）

子供を乗せて自転車を運転する目的は、**「買い物」が最も多く、次いで「遊び」、「送迎」**の順でした。「その他」には、通院や金融機関などがありました(図 7)。

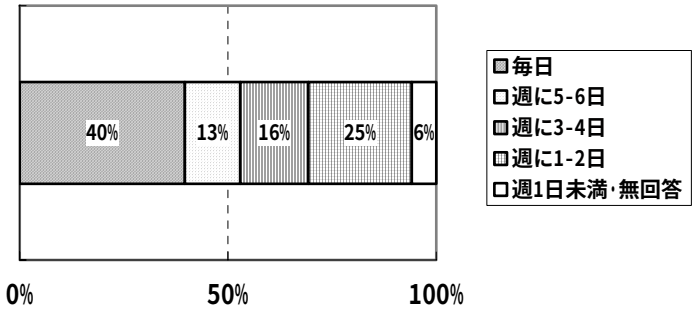
図7：使用目的（総数　257）



3-2)使用頻度

毎日使う回答者が 4 割を占めました。主に平日に毎日使う「週に５－６日」を含めると**半数あまりが良く使っている**と答えました。一方で週に「2 日以下」しか使わない回答者は3割でした。尚、「週に４－５日」「週に２－３日」はそれぞれ少ない数である「週に３－４日」「週に１－２日」に含めました（図 8)。

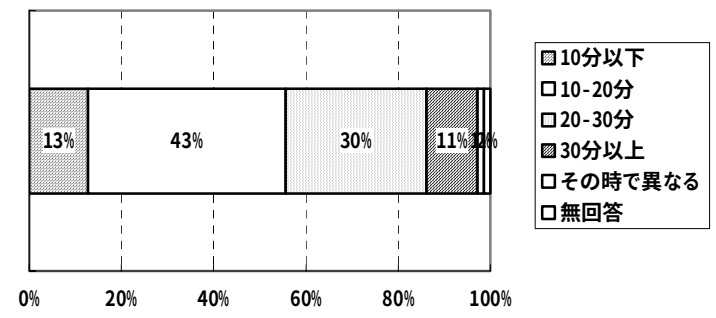
図8：使用頻度



3-3)乗車時間

1日の乗車時間は「10－20分」が最も多く、次いで「20－30分」、「10分以下」「30分以上」の順でした（図9）。

図9：乗車時間

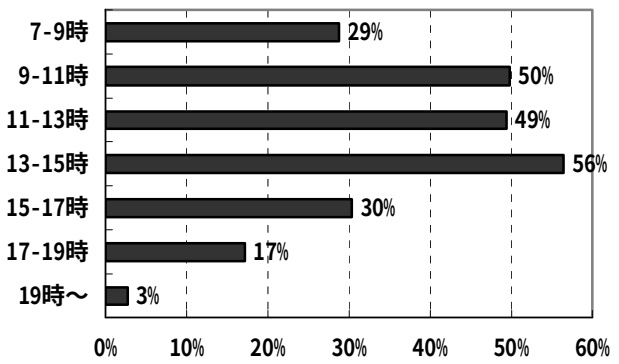


3-4) 使用する時間帯

（3つまでの複数回答）

「**13～15時**」が最も多く、次に「９～11時」と「11時～13 時」、「７～９時」「15～17時」の順で、なだらかな山型のグラフとなりました。朝晩の「７～９時」「17時～19 時」「19 時以降」は保育園の送迎が主でした（図10）。

図１０：乗車する時間帯



3-5)子供を同乗させた期間

429人分の回答が得られました（第1子241人、第2子152人、第3子33人、第4子3人）。

同乗をはじめた時は、１歳の時が最も多く、次に０歳、2歳の順でした。第1子、第2子を比べると、第2子の方が早くから同乗していることがわかりました（表６）。

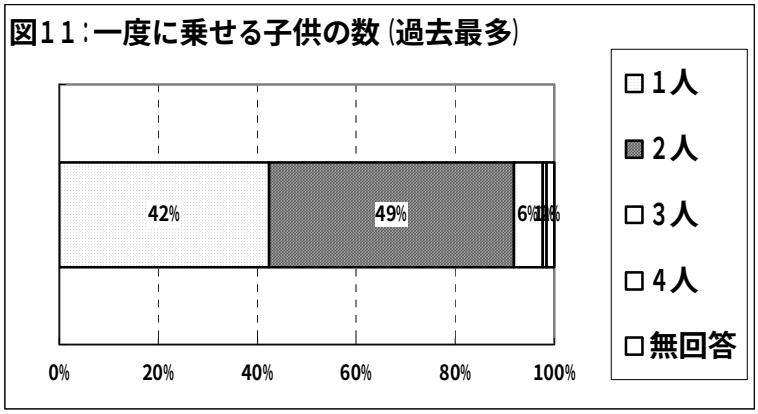
表６：子供を同乗させ始めた時期　　(単位：人)

	第１子		第２子		第３・４子		合計	
０歳	５５	22%	**７８**	**51%**	１４	39%	１４７	34%
１歳	**１０７**	**44%**	５３	35%	**１５**	**42%**	**１７５**	**41%**
２歳	４６	19%	１３	9%	5	14%	６４	15%
３歳	１８	7%	6	4%	2	6%	２６	6%
４歳	１３	5%	2	1%	0		１５	3%
５歳以上	2	1%	0		0		2	0.5%
合計	２４１		１５２		３６		４２９	

同乗開始時の体重は10-12kgが最も多く、次いで8-10kgでした。　尚、同乗を終了した時と現在の年齢・体重が区別できなかったため、同乗開始時のみの結果を示しました。

3-6）同乗させる子供の数

現在一度に同乗させる子供の数は、「1 人のみ」が58%で最も多く、「1 人又は２人」が 39%、３人乗せが 3 例(1%)でした。過去最多を聞いたところ、**5 割の回答者が「2 人」乗せを経験**していました。15 人の回答者が３人乗せを過去にしており、4 人乗せも 2 例ありました（図 11)。



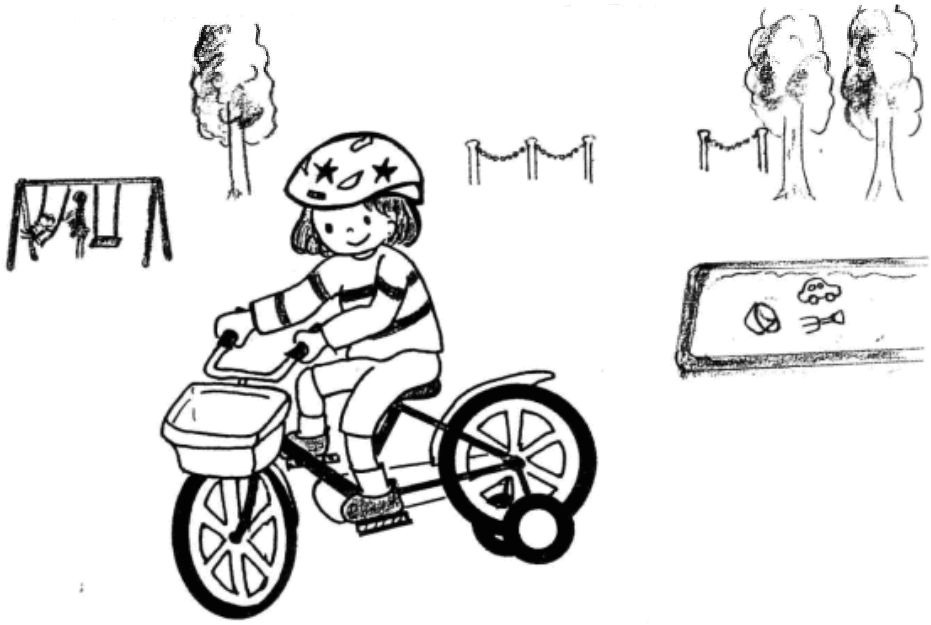
3 人目の乗せ方は「おんぶ」「後ろに 2 人」でした。2 人乗せでも「後ろに 2 人」の場合も少数ですがありました。

3-7）雨の日の乗車

雨の日に子供を同乗させて乗るかどうかを聞きました。雨の日は乗らない人が 6 割を超える一方で、1 割の人が雨でも乗っていました（表７)。

表７：雨の日の乗車　　(単位：人)

雨の日は乗らない	１６４（64%)
小雨なら乗る	６３（25%)
雨でも乗る	２７（11%)
無回答	３（1%)
合計	２５７



４、危険な思いをしたり、怪我をされたことがある方にお尋ねします。

4-1）危ないと感じる頻度：　乗るたび・週に２～３回程度・月に 2～３回程度、その他

事故１（事故 3 まで記入欄有り）

4-2）事故の時期：　　年　　月　　日　　曜日（わかる範囲で）

時間帯　　時頃、　雨天か否か、運転していた人（　　）

4-3）事故のパターン（当てはまるものを選ぶ）：

衝突（相手は？自動車・バイク・自転車・歩行者・壁などのもの・その他具体的に　　）

転倒（走っている時・押している時・とまっている時）

車輪への巻き込み（走行中に足を・とまっている時手をなど）

イスからの転落（乗る時・走行中・降りる時・停車中）

その他（　　）

4-4）その時の子供の状態：

・子供の年齢等　　才　　ヶ月、眠っていた・起きていた

・子供の数と乗っていた場所：　（例、前乗せ用の幼児座席に 1 人など）

・補助イスのベルトの着用：とめていた、はずしていた

・子供の服装（つけていた物をえらぶ）：

ヘルメット、帽子、靴、手袋、長袖、半袖、長ズボン、半ズボン

・運転していた人も含めて怪我の有無と場所、程度

（怪我はなかった、頭を打った、顔にすり傷、ひじを打撲して全治 3 週間など具体的に）

→その怪我で医療機関を受診しましたか（した・しない）

→消費生活センターなどに事故の報告をしましたか（した、しない）

報告をした場合、どこに？（　　）

4-5）自転車についていた装備：

・風防、クッションなどはつけていましたか

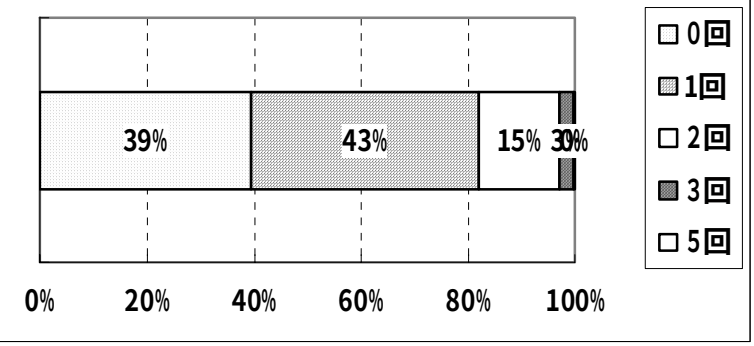
・後ろ乗せイスに子供が乗っていた場合、足載せ・足カバーはつけていましたか

4-5）事故の原因と思われることはどんなことですか。そしてどうすれば防げたと思いますか。

4-0）経験した事故の数

回答者 257 人中、156 人(61%)が事故を経験しており（図 12）、**212 件の事故事例**が得られました。尚、ここで「事故」とは、必ずしも衝突や転倒をしたものとは限らず、「・・・しそうになった」という未遂でも、回答者が事故事例として記入したものは事故として数えました。

図１２：経験した事故の数

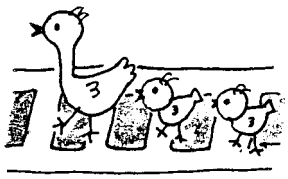


4-1）危ないと感じる頻度

「月に２～３回程度」危ないと感じる人が最も多く、それ以下の頻度の人がこれに次ぎました。一方で「乗るたび」に危険を感じている人が 15%ありました（表８）。

表８：危ないと感じる頻度　　(単位：人)

乗るたび	３８（15%）
週に 2～３回程度	１７（7%）
月に 2～３回程度	**７１**（28%）
それ以下	５６（22%）
その他・無回答	７５（29%）
合計	２５７（100%）



4-3)事故のパターン（複数回答）

212 例の事故パターンを聞いたところ、**「転倒」が最も多く**、「イスからの転落」、「衝突」、「車輪への巻き込み」の順になりました（図 13)。それぞれの事故パターンをさらに詳細に分類したところ、停車時の転倒が最も多く、次いで「走行時転倒」「押している時の転倒」となっていました（表 9)。

図13：事故のパターン

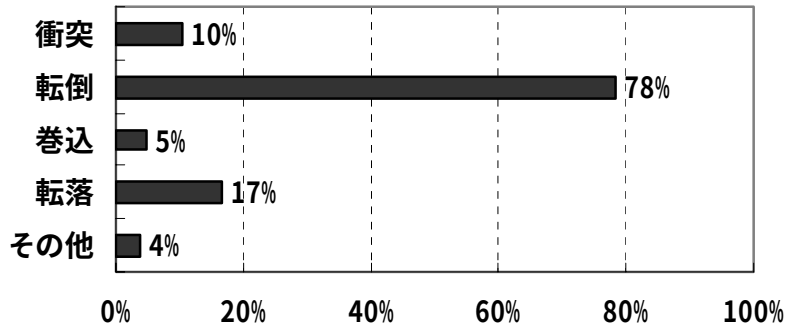


表９：事故パターンの詳細（上位 10）

	＜詳細パターン＞	＜事故数＞	＜ﾊﾟﾀｰﾝ中の比率＞	＜事故全体に対する比率＞
1	**停車時転倒**	８２件	転倒の 49%	**３４%**
2	**走行時転倒**	６３件	転倒の 38%	**３０%**
3	押している時転倒	１６件	転倒の 10%	８%
4	停車中にｲｽから転落	１３件	転落の 37%	６%
5	自転車との衝突	１１件	衝突の 50%	５%
6	降りる時ｲｽから転落	１０件	転落の 29%	５%
7	自動車との衝突	７件	衝突の 32%	３%
	走行時足巻き込み	７件	巻き込みの 70%	３%
9	走行時ｲｽから転落	６件	転落の 17%	３%
10	その他転倒	５件	転倒の 3%	２%

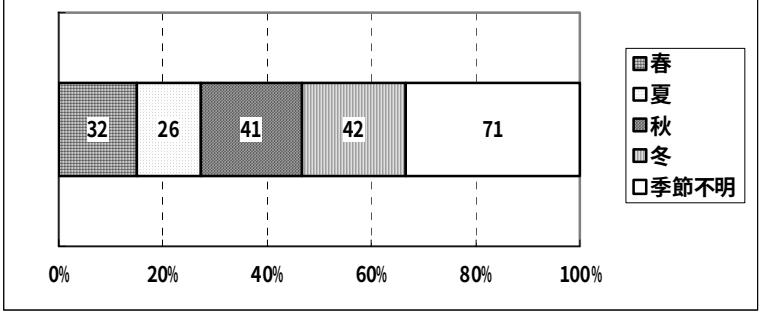
以下「乗る時ｲｽから転落」4 件、「その他衝突」3 件、「その他巻き込み」2 件、「その他転落」2 件、「バイクとの衝突」1 件、「停車中に手を巻き込み」1 件、「その他事故（詳細分類なし)」8 件でした。

4-2）事故の時期

・年別事故数と季節

2000 年 31 件、99 年 65 件、98 年 30 件、97 年 17 件、96 年 13 件、95 年以前 13 件、不明 43 件。春(3～5 月)32 件、夏(6～8 月)26 件、秋(9～11 月)41 件、冬(12～2 月)42 件でした。99 年と秋冬が多いのは、アンケートを行った時期が 2000 年 2 月末～4 月末のため、記憶に新しい事例が集まりやすかったためと考えられます。(図 14)。

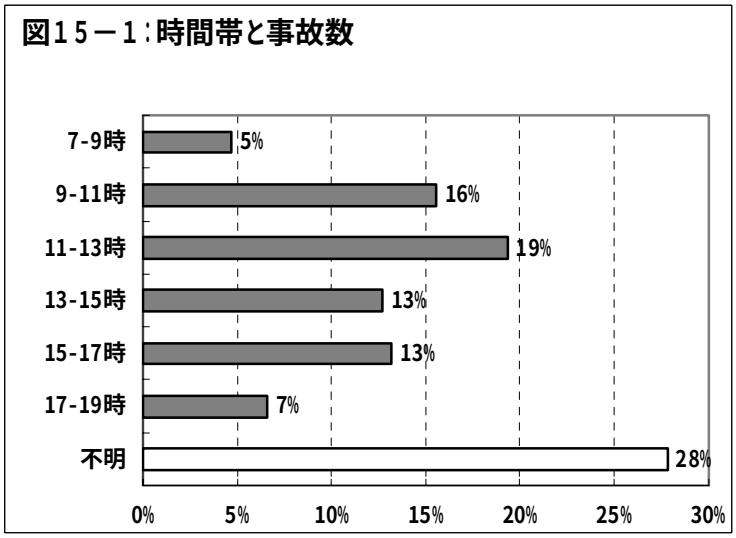
図１４：季節と事故数（総数212件）



・時間帯と事故パターン（パターン複数回答）

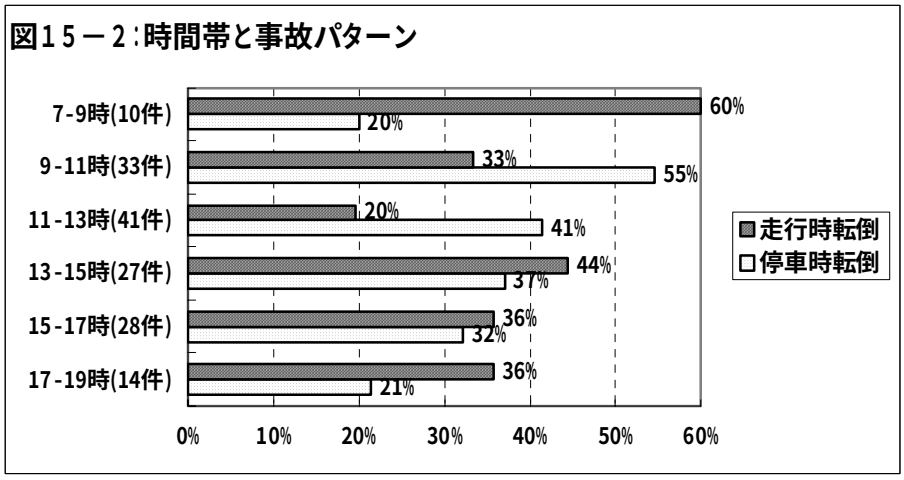
事故がおきる時間帯は、昼間に集中していました(図 15－1)。乗車する時間帯(図 10)は、13－15 時がピークですので、午前中はより事故がおきやすいといえます。

図１５－１：時間帯と事故数



事故がおきた時間帯がわかっている 153 例について時間帯ごとに比較したところ、**「走行時転倒」は朝夕に多く、「停車時転倒」は午前中から昼間に多い**という結果が出ました(図 15－2)。朝夕の時間帯は送迎中に、昼間は買い物や遊びの最中にというように、自転車に乗る目的の違いが事故パターンに反映されていると考え

図１５－２：時間帯と事故パターン



られます。

・天候（パターン複数回答）

強風(4 件)、雨上がりや雪が降った後(4 件)では、走っている時転倒する事故が大部分でした。晴天・曇天(122 例)では「走行時転倒」が 33%、「停車時転倒」が 40%となっていたのに対し、**雨天(13 件)では「走行時転倒」が 46%と多く**、「停車時転倒」が 23%と少なくなっていました。

・運転者

187 件(**88%)が母親が運転していた事故事例**でした。他は、8 件(4%)が父親、2 件(1%)が祖父、不明が 15 件(7%)でした。

4－4)子供の状態

・子供の位置と事故パターン（パターン複数回答）

子供が乗っていた位置がわかっている事故事例 202 件のうち、「前のみ」「後ろのみ」「前後」199 件で事故パターンとの関連をみました。その結果以下のような特徴が見られました(図 16)。

＊「前のみ」:「**停車時**転倒」が最多。**停車中にイスから転落**する事例が多い。

＊「後ろのみ」:「**走行中**転倒」が多い。**走行時に足を巻き込む**事例が多い。

＊「前後」:「**走行時**転倒」が最多。**イスから降りる時に転落**する事例が多い。

図16－1:子供の位置と事故パターン(転倒)

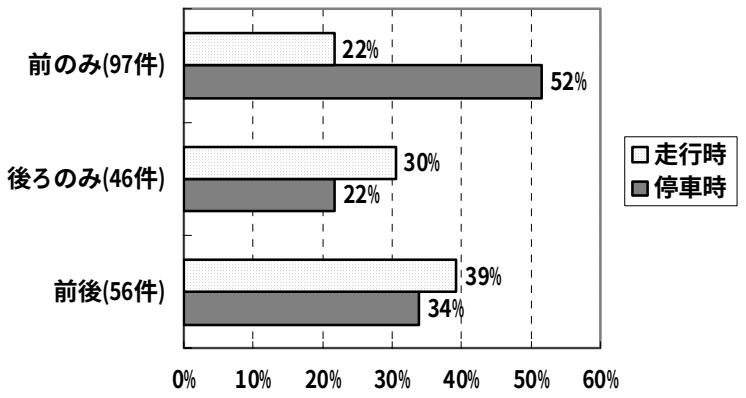
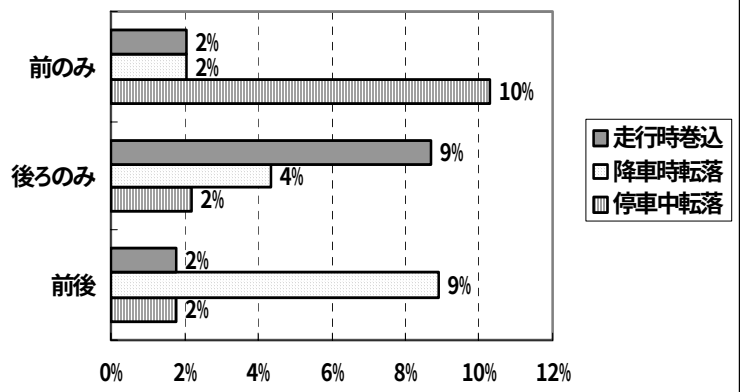


図16－2:子供の位置と事故パターン(転落・巻込)



前のみの場合、子供が乗ったらハンドルから手を離さない、子供は最後に乗せて最初に降ろすなど、p 38 に示すような注意点を守れば停車時の事故は予防ができると考えられます。走行時は、前に 1 人が

もっとも安定しているようです。（事故パターンとケガをした子供の位置との関連は図 21 を、子供の位置とケガの部位との関連は図 24 参照）

・子供の年齢

事故に遭った子供 232 人のうち、**もっとも多かったのは 2 歳、次いで１歳、3 歳、4 歳の順**でした。同乗している子供の（現在のものではありますが）年齢構成（表 5）と比較すると、**１歳と２歳が事故に遭いやすい**といえるでしょう(図 17－1)。

年齢のわかっている 230 人について事故パターンとの関連を検討したところ、**０、１歳に停車時の転倒が多く５歳に走行時の転倒が多く**なっていました(図 17－２)。

また、**イスからの転落は３歳までが 86%を占めました。**

図１７－１：年齢と事故数

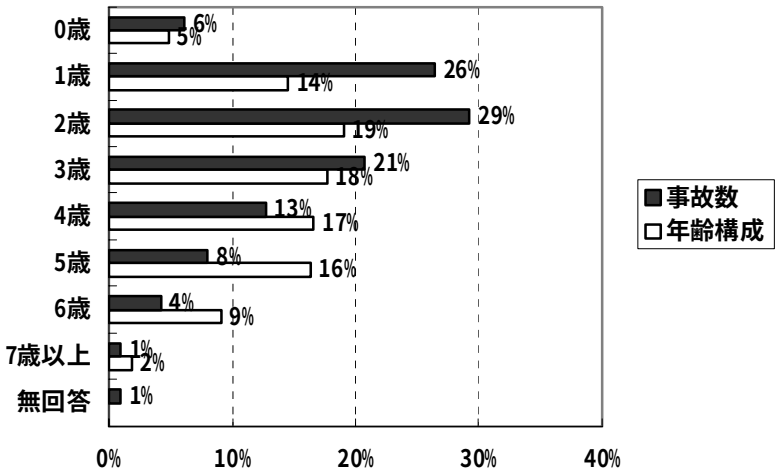
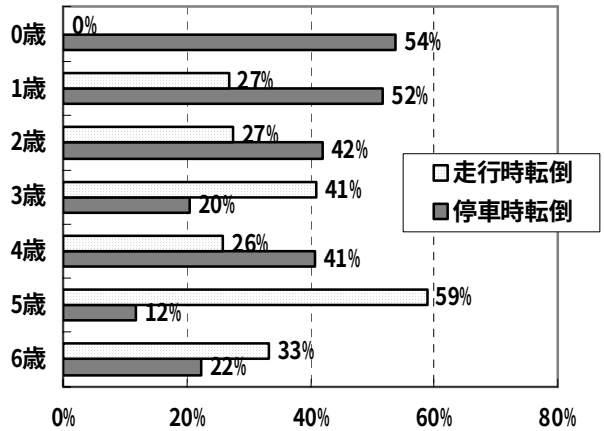


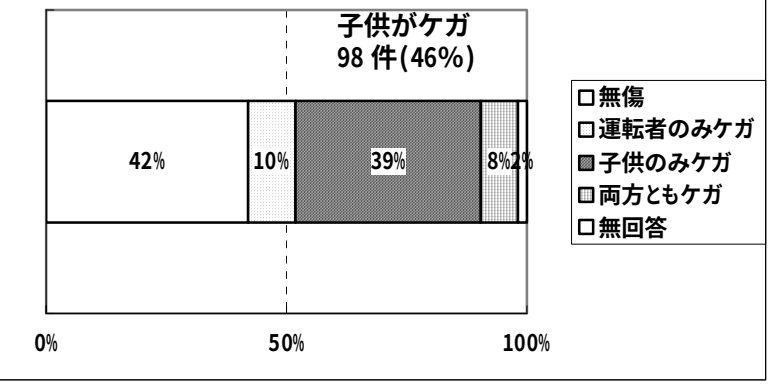
図１７－２：年齢と事故パターン



・ケガの有無

212 件の事故のうち、運転者を含めてケガをしていたのは 119 件(56%)ありました。**子供がケガをしていた事例は 98 件(全事故の 46%、**ケガをしている場合の 82%)で（図 18)、ケガをした子供の数はのべ 100 人でした。

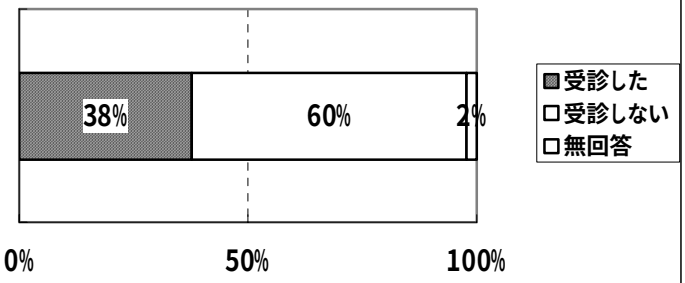
図18：ケガの有無



・医療機関への受診

子供がケガをした 98 件の事故のうち、**医療機関への受診をしたのは 37 件(38%)**でした（図 19）。

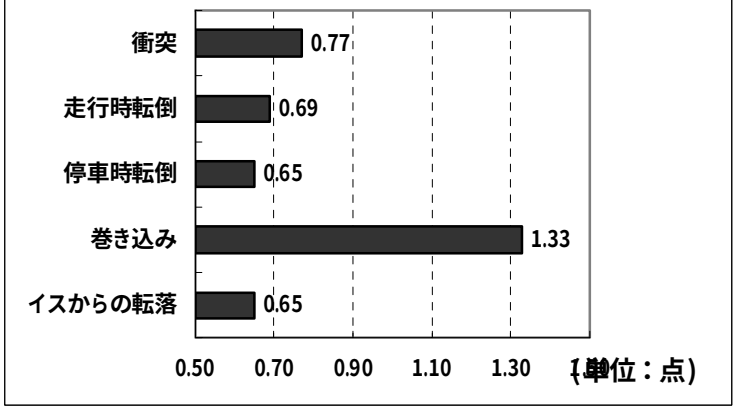
図19：医療機関への受診



・ケガの程度（子供）

ケガの程度を「通院しない」「通院全治 1 週間以内」「通院全治 1 週間超」の 3 段階に分け、それぞれ１，２，３点とし、無傷の場合を０点として事故パターンごとの平均点を出しました（数値が大きい事故パターンは、よりケガが重い傾向にあるといえます）。

図20：事故パターンとケガの程度

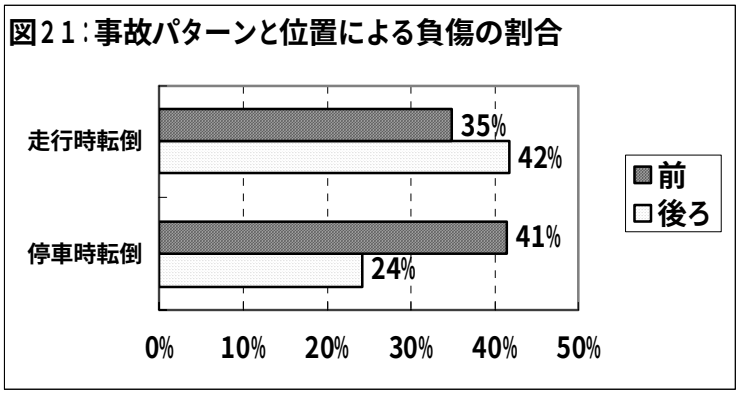


その結果、**「巻き込み」事故がケガが重い傾向にあり、「衝突」「走行時転倒」事故がそれに次いで**いました(図 20)。

・子供が乗っていた位置とケガの有無

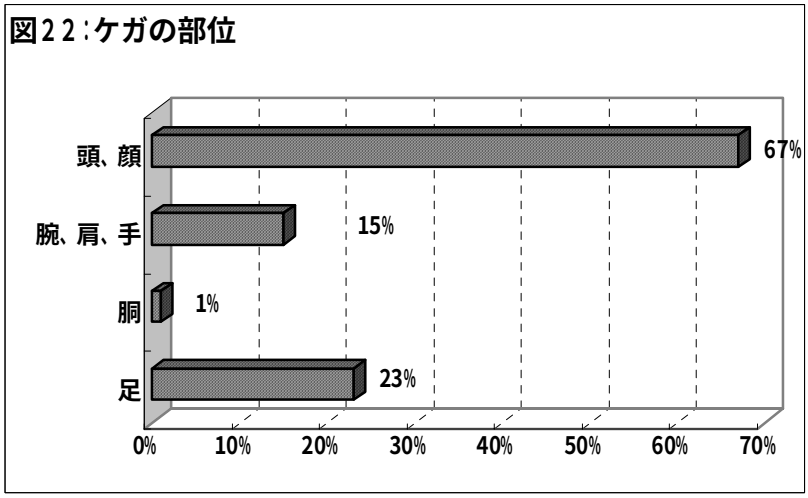
事故パターンによって、子供が乗っていた位置とケガの有無に違いがあるかを調べまし

た。その結果、「走行時転倒」では後ろに乗っていた子供は、前の子供よりもややケガをしやすく、**「停車時転倒」では、前の子供が後ろよりケガをしやすい**ことがわかりました（図 21）。停車時転倒の場合、前は子供の年齢が低いこと、後ろより位置が高いことなどが要因と考えられます。



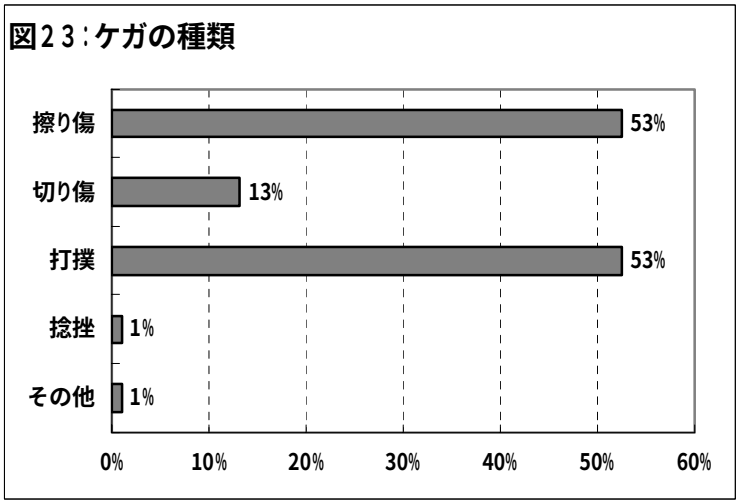
・ケガの部位（複数回答）

ケガをしたのべ 100 人の子供のうち、ケガをした場所がわかっている 93 人について、ケガの部位を検討しました。体を「頭、顔」「腕、肩、手」「胴」「足」の 4 つの部位に分け、どの部位が最もケガをしているか調べました。その結果、**67%の子供が「頭、顔」にケガ**をしていました。（図 22）。尚、走行時の巻き込み事故では、足のみを負傷していました（６人）。（負傷者の位置、ケガの種類、ケガの程度とケガの部位との関係は図 24～26 参照）



・ケガの種類（複数回答）

ケガをした 100 人のうちケガの種類がわかっている 99 人について調べた結果、擦り傷と打撲が 53%で最も多く、切り傷が 13%、捻挫とその他（歯が欠けた）が各 1%でした（図 23）。

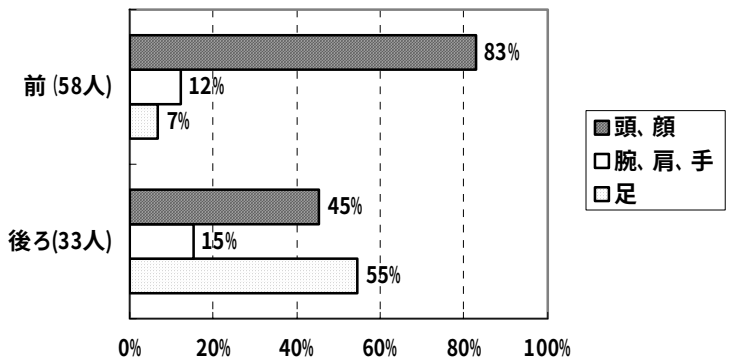


＊ ケガの部位と、負傷者の位置・ケガの種類・医療機関への受診・ケガの程度の 4 項目とを掛け合わせてさらに検討しました。尚、「胴」は「後ろ」の位置で打撲が 1 例のみのため、グラフには示しませんでした。

・負傷者の位置とケガの部位

負傷者の位置がわかっている 91 人で、乗っていた位置とケガの部位との関係を調べました。その結果、**「前」では、83%の子供が「頭、顔」にケガ**を負っていました。一方**「後ろ」では、「足」にケガを負う子供が 55%あり、「頭、顔」は 45%**でした（図 24）。

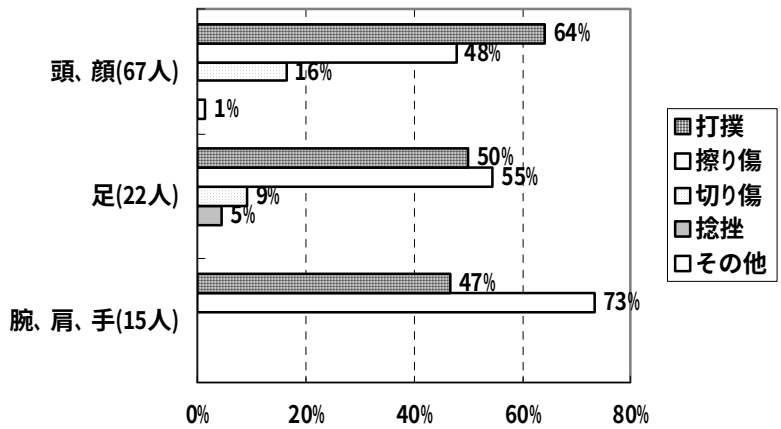
図２４：負傷者の位置とケガの部位



・ケガの部位とケガの種類

体の各部位が、どのような種類のケガをしているのかを検討した結果、**「頭、顔」では打撲が 64%**で最も多く、擦り傷が 48%でこれに次いでいました。「腕、肩、手」では擦り傷が 73%、**「足」では擦り傷（55%）と打撲（50%）**が多くなっていました（図 25）。

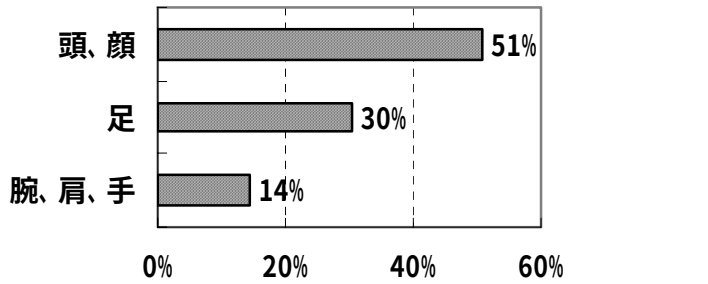
図２５：ケガの部位とケガの種類



・ケガの部位とケガの程度

ケガの部位によって受診率が異なるか調べました。その結果、**「頭、顔」をケガした子供の 51%が受診**しており、「足」では 30%、「腕、肩、手」では 14%でした（図 26－1）。尚、ケガの部位は

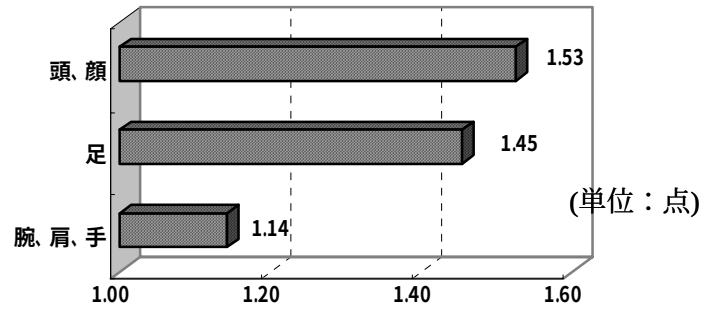
図２６－１：ケガの部位と受診率



複数回答のため、他の部位のために受診したケースも含まれています。

さらにケガの程度を図 20 と同様に数値化して評価したところ、**「頭、顔」にケガをした場合が最もケガが重い傾向にあり、「足」がこれに次いでいました**（図 26－2）。

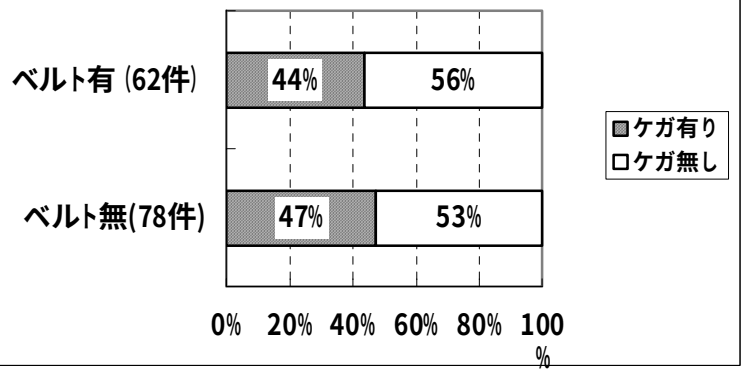
図２６－２：ケガの部位とケガの程度



・補助イスのベルトの効果

補助イスのベルト着用の有無がわかっている 140 件の事故事例について、ベルトの効果について調べました。その結果、（現状の補助イスのベルトでは）**ベルトの着用は、ケガの防止や程度を軽くする効果があるとはいえません**でした（図 27）。

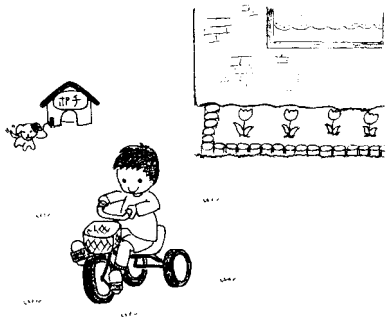
図２７：補助イスのベルトの効果



この他に、帽子と靴が頭や足を保護する効果があるかを検討しましたが、事例の数が十分ではなかったため結果は示しませんでした。

・報告の有無

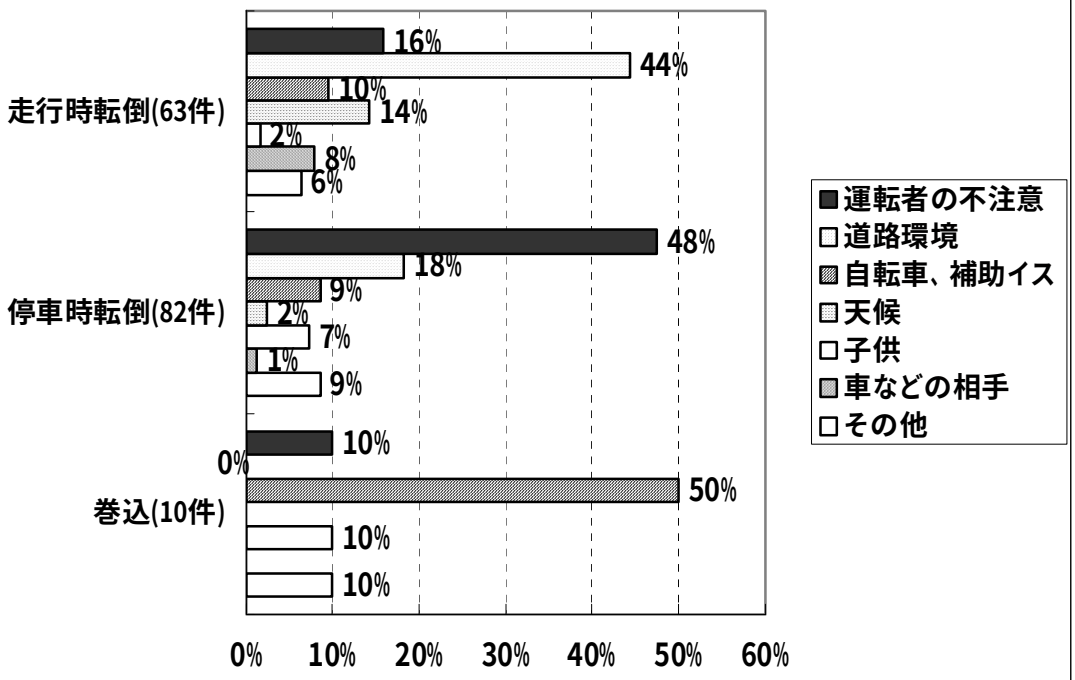
全事例 212 件中、報告をしていたのは 5 件だけでした。報告先は、警察 2 件（自動車との衝突）、保険会社 2 件(走行時転倒)、自転車販売店 1 件（停車時転倒）でした。

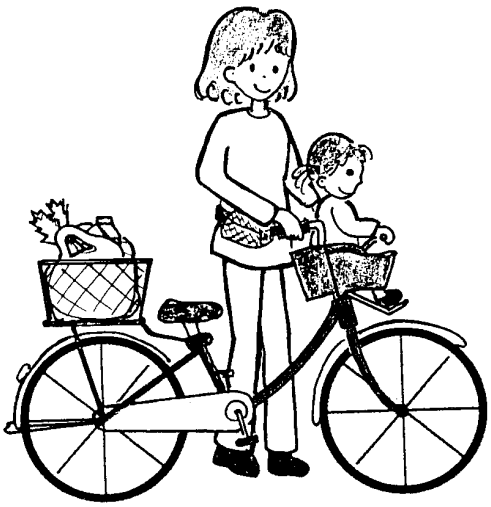


・原因の考察（複数回答）

回答者に「事故の原因と思われること」を自由記入してもらい、結果を 7 つに分類しました。その結果、「走行時転倒」では「道路環境」が 44%、「運転者の不注意や疲労」が 16%挙げられているのに対して、「停車時転倒」では「運転者の不注意や疲労」が 48%、「道路環境」が 18%で逆転していました(図 28)。巻き込み事故は、「自転車、補助イス」が原因であると考える回答者が半分でした。（p27 安全確保のために気をつけていること：図 31 も参照）

図28：事故原因の考察





【事故事例】
　アンケートの回答の中から、典型的な例やケガが重かった例を挙げました。
＜衝突＞
・交差点で横断歩道を走行中、左折車に衝突して転倒。後ろ乗せに乗っていた 2 歳 3 ヶ月の子供が頭部に打撲と擦り傷を負い、受診。
・坂を下っていて木の陰から飛び出してきた自転車に衝突。前乗せ用に 1 歳 10 ヶ月、後ろ乗せ用に 4 歳 11 ヶ月の子供。後ろの子が頭を打ち、嘔吐して受診。3 日間幼稚園を休む。運転していた母親は右手首捻挫で 3 ヶ月間通院。
・信号に向かって坂を登っていて、反対から坂を下ってきた自転車と正面衝突。後ろ乗せに乗っていた 6 歳 7 ヶ月の子供が頭を打ち、こぶができた（受診せず）。

＜転倒＞
＊走行中
・3 歳 5 ヶ月の子供を前乗せに乗せて母が走行中、砂利のために転倒。子供はあごを切り、2 針縫い、１週間で抜糸。運転者もひざに擦り傷を負った。
・前カゴタイプの自転車に 2 歳と 5 歳の子供を前後に乗せ、保育園の荷物をハンドルにかけて運転。荷物が前輪に巻き込まれて急ブレーキがかかり横転。後ろの 5 歳の子が頭を打ち、顔に擦り傷を負って受診した。
・前カゴに重い荷物と、前乗せ用に 1 歳 9 ヶ月の子供を乗せ、車道から歩道へあがろうとして少しの段差のために転倒。頭を打った子供は、大声で泣いた後すぐに泣き止み、ぐったりした。総合病院の脳神経外科受診。1 度目覚めて嘔吐し、点滴をしながら 5 時間眠りつづけた。目覚めた後は会話もでき、外傷や頭蓋骨の異常も無く帰宅。頬と手に負った擦り傷も 3 日で完治。

＊停車中
・傾斜がある道路に止めた時に、バランスを崩して子供ごと転倒。前乗せの１歳 7 ヶ月の子が後頭部に腫れと擦り傷。後ろ乗せの 4 歳 7 ヶ月の子はおでこに擦り傷と腫れ。
・止まっている時、ハンドルから手を放した瞬間に、前カゴに乗っていた 2 歳 1 ヶ月の子供が動いて転倒。頭を打ち、出血し、受診した。
•1 歳 4 ヶ月の子供を前乗せに乗せて母が運転。子供が持っていたものを落としたので、拾おうとして自転車から降りた時に母と反対側へ転倒。子供が、上の歯で下唇を噛んで切った。あごにも擦り傷を負い、2 度受診。口の中を切ったので食事が元に戻ったのは 1 週間後。

・駐輪場で前乗せの 1 歳 11 ヶ月の子供を降ろそうとして子供ごと転倒。将棋倒しになった自転車の間にはさまれた。隣の自転車の割れたライトでまぶたを切り、全治 1 週間。

＊押している時
・後ろ方向に押していてバランスを崩し転倒。前乗せ用に乗っていた 3 歳 1 ヶ月の子供が脳震盪を起こして受診した。

＜巻き込み＞
・父が通勤用の自転車の荷台に６歳 1 ヶ月の子を乗せて走行中、左足を後輪に巻き込また。左足アキレス腱部をＹ字に切り、かろうじて肉が残っていたところを 15 針縫った。（普段子供は同乗しないが、その時だけ同乗）
・前乗せに 3 歳、後ろ乗せに 5 歳の子供を乗せて母が運転中に、足載せ、足カバーをつけていなかったため、足を動かした時に後ろの子が左足を後輪に巻き込まれた。左足の足首に擦り傷と軽い打撲を負い、受診。全治 3 日。
・片方の足載せが壊れたまま母が運転中に、後ろ乗せの 3 歳の子供が、後輪に足を巻き込まれた。くるぶしの下を深く傷つけ、全治 1 ヶ月。

・実家に帰っていたとき、5 歳の子供を前乗せに乗せて母が運転中に、足を前輪に巻き込まれた。足の親指の爪の横を軽く切り、一度受診。運転者も急停車した自転車から放り出され手と足を打撲。

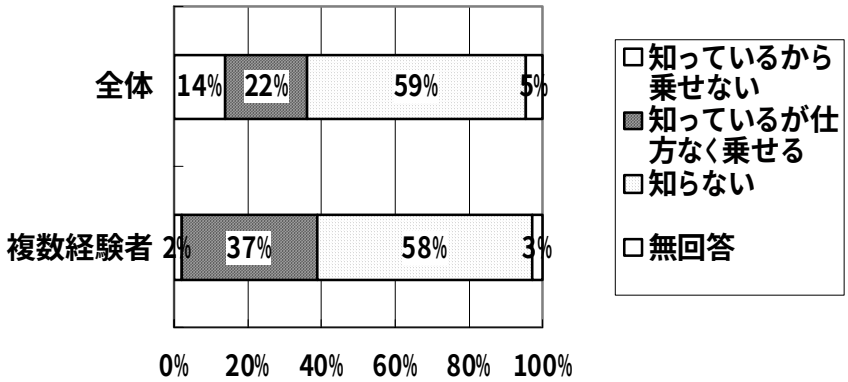
＜イスからの転落＞
・3 歳の子供を前乗せに乗せて母が運転。下り坂の歩道の段差のところで、イスごと転落したが無傷。ハンドルに固定する金具が緩んでいたのが原因。
・5 歳 3 ヶ月の子供が後ろ乗せ用の補助イスに乗っていた。後ろ座席を固定している自転車の本体が折れた。運転していた父親がとっさに座席を手で抑えて転落せずにすんだ。
・前カゴタイプは座面が広く足の動きが自由なので、つかまり立ちの時期に立ち上がって落ちそうになった。

５、ご存知でしょうか
5-1）道路交通法では、6 歳未満の幼児 1 人のみの同乗が認められています
（知っているから 2 人以上は乗せない・知っているが仕方なく 2 人以上乗せる・知らない）
5-2）道路交通法では一般の自転車の積載重量は３０ｋｇまでと決められている
（知っているので守っている・知っているが重量オーバーのことが多い・知らない）
5-3）SG マークについて（内容まで知っている・名前だけは知っている・知らない）
5-4）TS マークについて（内容まで知っている・名前だけは知っている・知らない）

5-1)道路交通法の知識（同乗人数）

道路交通法の施行細則は都道府県によって異なりますが(表 14)、一般的な規則で知識を聞きました。その結果、**「知らない」と答えた回答者が 59%**あり「知っているから 2 人以上乗せない」と答えた人は 14%にとどまりました。設問 3-6)で 2 人乗せを経験している人に限ると、知らずに 2 人以上乗せている人が 58%、知っていても仕方なく乗せている人が 37%でした(図 29)。

図29：道路交通法の知識（同乗人員）



5-2）道路交通法の知識（積載重量）

「知っているので守っている」4%、「知っているが重量オーバーのことが多い」5%、**「知らない」86%**、無回答 5%で、知らない人がほとんどでした。2 人以上の子供を乗せた場合には、積載重量も超える可能性は大きいでしょう。

5-3､4)ＳＧマーク、ＴＳマークの認知度

ＳＧマーク(ｐ32)の方が認知度は高く、ＴＳマーク(ｐ35)は 57%の人が知りませんでした(表 10)。

表１０：ＳＧマーク、ＴＳマークの認知度

	ＳＧマーク	ＴＳマーク
内容まで知っている	１６％	４％
名前だけは知っている	５８％	３５％
知らない	２２％	５７％
無回答	４％	４％

６、安全のための装備を子供が嫌がった場合どうしますか。
6-1）補助イスのベルト：（着用しなければ乗せない・なるべく着用するが無理強いはしない・
仕方なく着用しないまま乗せる・いつも着用していない）
6-2)帽子：（着用しなければ乗せない・なるべく着用するが無理強いはしない・
仕方なく着用しないまま乗せる・いつも着用していない）
6-3)靴：（着用しなければ乗せない・なるべく着用するが無理強いはしない・
仕方なく着用しないまま乗せる・いつも着用していない）
6-4) ４～５千円程度の子供用（3 歳～6 歳）ヘルメットが市販されています。同乗する乳幼児用のヘルメットがあれば使用しますか？
今も使用している・使用する・安ければ使用する（いくら位？　　）・帽子で十分・必要ない

6-1､2､3）子供が着用するのを嫌がった場合、として回答者の安全に対する意識を聞きました。多くの回答者は、帽子と靴に関しては「安全のための装備」とは考えていませんでしたが、帽子を「いつも着用していない」人が 46%ありました。**自転車に乗ったら頭を守る必要があることを知らせていくことが重要**だと感じました（表 11)。

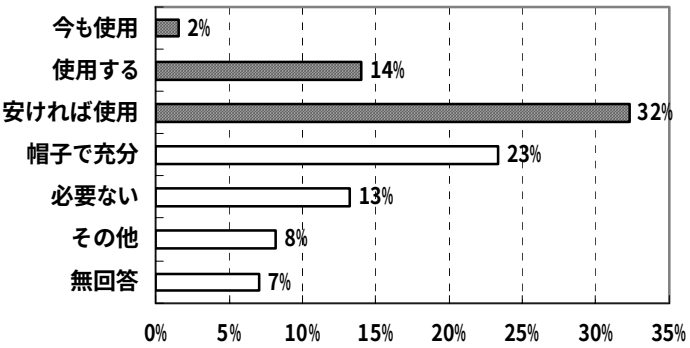
表１１：子供が嫌がったときのベルト・帽子・靴の着用

	ベルト	帽子	靴
着用しなければ乗せない	36%	10%	81%
なるべく着用するが無理強いしない	27%	33%	11%
仕方なく着用しないままのせる	10%	5%	2%
いつも着用していない	23%	46%	2%
無回答	3%	5%	4%

6-4）ヘルメットの使用

「今も使用している」、今後「使用する」「安ければ使用する」と、**ヘルメットを使用すると答えた人は全回答者の 48%**でした。一方で「帽子で充分」､「必要ない」､「その他（必要だとは思うが使いたくないなど)」と、**ヘルメットを使用しないと答えた人は 45%**で、ほぼ半々でした（図 30)。

図３０：ヘルメットの使用



「安ければ使用する」人に価格の目安を聞いた結果、「1,000～1,999 円」と「2,000～2,999 円」が多くなりました。実際には、「1,000 円程度」「2,000 円ぐらい」との回答が多いので、**ヘルメットの普及には、2000 円以下に価格を抑える必要**があるでしょう（表 12)。

表１２：ヘルメットの価格

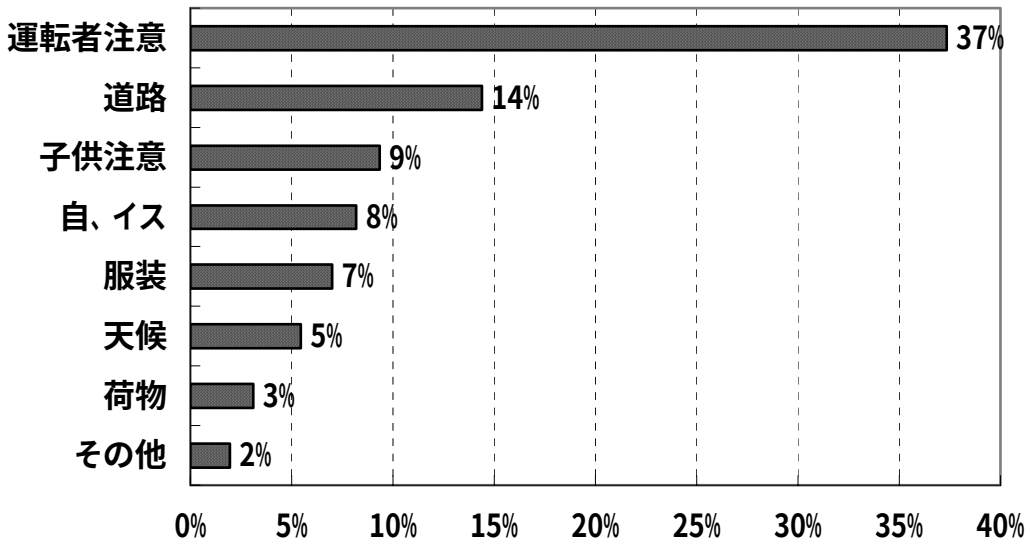
～999 円	5 人 (6%)
1,000～1,999 円	28 人 (34%)
2,000～2,999 円	31 人 (37%)
3,000～3,999 円	8 人 (10%)
4,000～4,999 円	0 人
無　回　答	11 人 (13%)

7、子供を同乗させる時に、安全確保のために気をつけていること、補助イスへの要望など、ご自由にご記入ください。

安全確保のために気をつけていることを自由記入してもらいました。内容を 8 種類に分類し、複数回答として集計しました。その結果、**「運転者注意」が最も多く、「道路」「子供注意」がこれに次いでいました**（図 31）。各分類と主な内容は以下のとおりです。

「運転者注意」：ハンドルから手を放さない、子供が寝たら降りて押す、スピードを出さない、安全運転、交差点ではいったん止まる、乗り降りの際に体制を整えるなど。
「道路」：車の多い道を避ける、段差は降りて押す、平らなところを選んで乗せるなど。
「子供注意」：眠らないよう話し掛ける、ふざけないよう子供に言い聞かせるなど。
「自転車・補助イス」：サドルを下げる、ハンドルロックする、スタンドのストッパーを掛ける、補助イスのベルトをする、補助イスのぐらつきを揺らして確認するなど。
「服装」：動きやすい服で乗る、ヘルメットを着用する、帽子をかぶせ靴を履かせるなど。
「天候」：雨・雪・強風の日を避ける。
「荷物」：積みすぎない、買い物したらゆっくり走るなど。
「その他」：子供が寝ない時間帯を選ぶ、母が体調の悪い時は乗らないなど。

図31：安全確保のために気をつけていること



8、自転車への子供の同乗について、海外の事情をご存知の方はご記入ください。

表 15（p45～47）参照。